

基本計画策定に向けた意見交換

大項目 1 いきいきと暮らせる街づくりの推進

部会員

- ・「門前町の雰囲気づくり」では抽象的なので、「門前町を歩きたくなる仕掛けづくり」と具体的に表現してはどうか。

部会員

- ・中心市街地の活性化には観光客を惹き付ける視点が一番必要であり、都市デザインや受入れ体制の取組を入れるべき。

部会員

- ・中心市街地の再生に、水と緑の再生、景観についても取り入れるべき。
- ・以前から中心市街地には緑が少ないと言われており、街なかに公園を整備していく必要がある。
- ・「門前町の雰囲気づくり」を「門前町の景観をいかした街づくり」にしてはどうか。

部会員

- ・「中央部の歩行者優先道路」を「中央通りの～」としたほうが、はっきりする。

部会員

- ・中央通りだけではなく、駅前を中心に中心市街地全体にかかってくるので、「中心部の歩行者優先道路」としては。

部会員

- ・秩序ある市街地の形成の取組に「ゾーニング」とあるが、従来のゾーニングは商業エリアや住宅エリアはここだとはっきり位置付けしていくものである。コンパクトなまちづくりとは、商業エリアにも住んでもらうという事であり、今までのゾーニングの考え方では、まちをコンパクトにしていくのは難しい。

部会員

- ・中心市街地の活性化には市街地・まちづくりのリーダーの育成が大切だ。そのリーダーと行政の連携といった部分も入れていくべき。

部会員

- ・中項目に「ユニバーサルを取り入れた街づくり」とあるが、これを小項目に入れて、中項目には「人にやさしい街づくり」としたほうが、大項目からの流れからも良い。

部会員

- ・中心市街地の小学校を統廃合していく動きがあるが、中心市街地から子供が居なくなっているのか。
- ・無くなった校舎をどう活用していくのか。取組にも既存ストックの有効活用と謳っているが、具体的に示してほしい。

部会員

- ・「小路・路地の活用」とあるが、空き家などを活用する場合に法的に問題無いか。

事務局

- ・活用していきたいと考えているが、道路等の問題もあり、検討していく必要がる。

部会員

- ・人にやさしいという観点から、郊外にある公園を高齢者が散歩やウォーキングをできるように整備し直すことはできないか。

部会員

- ・ユニバーサルの取組に、歩ける歩道の拡充や幅員の確保が必要だ。市内には大通り沿い以外は危険で歩けない歩道が多い。

大項目2 まちを結ぶ快適なネットワークの推進

部会員

- ・公共交通システムの構築の中に、市内だけでは無く、広域的に市内外を結ぶ公共交通システムについて検討していく必要がある。

部会員

- ・自転車の利用促進として、駅周辺の駐輪場を整備してほしい。

部会員

- ・他市では公園の下に駐輪場が整備されている所があるが、長野市には街なかに公園が無い。

部会員

- ・自転車を優先させるかは長野市の意思次第。優先すれば駐輪場は増える。

部会員

- ・駅前に利用しやすい駐輪場を整備してほしい。駅から遠いと放置自転車も増える。
- ・特に女性の場合、駅から離れて暗い場所にあると利用しにくい。高架下の空いているスペースを活用してみてもは。

部会員

- ・駐輪場は無料なのか。

事務局

- ・現在、本市に整備している40箇所の軌道の駐輪場は全て無料である。台数的には問題無いと考えているが、夜暗いなど安全面の課題はある。
- ・長野駅や篠ノ井駅前には違法駐輪の問題があり、市民に啓発していく必要がある。

部会員

- ・違法駐輪の多い場所に駐輪場を作るべきだ。

部会員

- ・有料可しても意味が無いのか。

事務局

- ・無料化したのは、違法駐輪を減らすためであり、成果が出ている。

部会員

- ・安全協会に協力してもらい、朝の混雑時に駐輪場への誘導係を依頼してみてもは。

事務局

- ・駅前商店街で構成されている対策委員会には働きかけていきたい。

部会員

- ・中項目1を「地域の実情に合わせた交通システムの構築」とし、小項目を「公共交通機関や自転車の利用促進を図った交通システムの構築」としたらどうか。

大項目3 地域から広がるふれあいと交流の推進

部会員

- ・中項目の国際交流と地域間交流の順番を入れ替えたらどうか。

部会員

- ・定住外国人の問題を入れてほしい。

部会員

- ・国際交流でも地域間交流でも、その担い手づくりが必要である。市民の意識改革が必要であり、その人材育成に取り組むべき。

部会員

- ・自分の住んでいるまちの事を知らない市民が多い。善光寺や松代の優れた文化資産を全く理解していない場合も多く、日本の文化も理解しないで、国際交流をすすめることはできない。そうした項目も入れて欲しい。

部会員

- ・道路標識やサインをもっと外国人に親切に伝えていくべき。観光戦略からも中国、韓国などアジアの人々にも対応した情報の多言語化が必要である。

事務局

- ・道路標識の多言語化は今後の課題だ。

事務局

- ・少し日本語が理解できる場合、平仮名の標記が理解しやすいという話もあり、取組のひとつの考え方である。

部会員

- ・帰国子女の意見を参考にしてみてもいい。

部会員

- ・九州の各地域では中国、韓国人をターゲットにしたまちづくりを進めている。

部会員

- ・車より交通機関を利用した方が、日本人とのふれあいも図れる。公共交通の乗り方の案内についても外国人に対応した看板の設置等が今後の課題だ。

部会員

- ・地域間交流に道州制について取り入れていくべきか。

事務局

- ・地域間交流には道州制の観点は入っていないが、行政経営の中では、新たな地方自治制度の調査・研究ということで道州制も捉えた取組項目を入れている。

部会員

- ・道州制について30年ぐらい議論をしているが、すぐ実現するとは考えにくい。将来的に考える必要はあるが、現時点で施策の見直しを行う必要はない。

事務局

- ・本日のご意見については、基本計画たたき台作成の参考にさせていただく。

以上